



「もしも」のために 日頃から準備しておきましょう

避難生活では、助けが来るまで自力で生活することも考えられます。日頃から準備できるものとして、次のような非常時持出品と非常備蓄品があります。何をどれだけ用意すればよいか、家族で話し合ってみましょう。すでに準備している人も、賞味期限が過ぎていないかなど定期的な確認が必要です。

非常時持出品

避難時にまず持ち出すものです。

- 生活用品
 - 衣類・下着 タオル ティッシュ
 - 懐中電灯 携帯ラジオ・予備電池など
- 貴重品
 - 現金 通帳・印かん
 - 権利証書 健康保険証など
- 非常食
 - 飲料水 乾パン
 - 紙皿などの食器 缶きりなど
- 救急医療品
 - 傷薬・包帯・絆創膏 かぜ薬・胃腸薬

非常備蓄品

災害復旧までの数日間（最低3日）分準備しましょう。

- 生活用品
 - 毛布・寝袋 新聞紙 洗面用具
 - 鍋・やかん トイレットペーパー
 - 筆記用具 バケツなど
- 非常食
 - 飲料水（1人1日3ℓが目安）
 - 保存食（缶詰やレトルト食品など）
 - チョコレートなどの菓子類 調味料など
- 燃料
 - 卓上コンロ 携帯コンロ
 - ガスボンベ 固形燃料

※これはあくまで一例です。ほかにも、持病があれば薬が必要です。乳幼児がいる家庭では、粉ミルクやおむつなどを準備する必要があります。

あなたはどちらを選択しますか？

自分がどう行動するべきかを知ることが身を守るためには重要です。国・県が発行する防災マップに記載されている、災害発生時に「やっつけないこと」。あなたは正しい選択ができますか？

問題① 夕食中、大地震が発生。建物が揺れ、棚から食器が落下しています。あなたはどう行動しますか？

A テーブルの下に隠れる

B すぐに外へ逃げる

問題② 最初の揺れが治まりました。自宅は倒壊していませんが、家具が散乱しています。次の余震がくる前にあなたがとる行動は？

A すぐに家から離れる

B 出口を確保する

問題③ エレベーターで移動中、地震が発生。床が揺れています。あなたが最初にとるべき行動は？

A 全階のボタンを押す

B 床に伏せる

問題④ 車を運転しているとき、ラジオから緊急地震速報が流れてきました。それを聞いたあなたの行動は？

A ブレーキを踏む

B 減速する

正解は次のとおりです。いくつ正しい選択ができましたか？

問題①の答え A

まずは自分の安全を確保することが大切です。慌てて外へ出るとガラスなどが落ちてくる可能性があります。危険です。テーブルなどが無い場合は、大きな家具から離れてください。



問題②の答え A

エレベーター内で揺れを感じたら、すぐにすべての階のボタンを押してください。エレベーターを降りましょう。閉じ込められる危険があるため、エレベーター内に留まるのは危険です。

問題③の答え B

まずハザードランプをつけて減速し、道路左側に車を寄せてください。ほかの車がラジオを聞いていたり、急ブレーキを踏むと、追突などの交通事故を起こす可能性があるため、避けてください。

問題④の答え B

地震で建物が歪むと、ドアや窓が開かなくなることがあります。揺れが治まったら、ドアを開けるなど避難経路を確保して避難準備

家族で話し合うことも大切です

家族や知人、大切な人と、「いざというとき」の連絡手段や集合場所を決めていますか？

「いつも側にいるから」「携帯電話があるから」などの理由で、すぐに連絡がとれると考えるのは危険です。家族全員が自宅にいるとき、地震が発生するとは限りません。勤めている人は職場で、子どもたちは学校で、通院している人は病院で、それぞれ違う場所で被災する可能性もあります。

自宅や職場に近い避難所はどこか、家族は知っていますか？

携帯電話がなくても、子どもの安否を知る手段を知っていますか？

避難場所や危険箇所の情報は、市が発行している菊池市防災マップなどで確認できます。また、災害用伝言ダイヤルの使い方を家族で確認しておくなど、安否確認の方法を確認することも大切です。非常時持出品の保管場所や「まず何をするか」などの地震対策を、地震が起きる前に、ぜひ家族で話し合ってください。



防災マップはホームページにも掲載しています。

東日本大震災へ 義援金を送りました



蒲島知事（中央）へ義援金を手渡す福村市長

東日本大震災は、世界の歴史に残る大惨事となりました。福村市長は被災地の状況を知り、「本市もいつ被害に遭うかわからない。これは決して他人事ではない」と判断。自治体としてできる限りの支援をしたいと、被災地へ義援金を送るため動き出します。

3月14日、3月定例議会の追加議案として、義援金の追加として、義援金を5,000万円の補正予算を上程。議案は全会一致で可決しました。義援金は、人口約5万人の市民一人あたり約1,000円を募集し、3月16日、熊本県庁を訪れた福村市長は、義援金を蒲島知事へ手渡ししました。義援金は県を通じ、国の機関や日本赤十字社などで構成される義援金配分委員会に集められ、各被災地へ配分されます。

今回の震災では、本市と友好都市を結んでいる岩手県遠野市も被災し、庁舎損壊や停電などの被害が出ています。市では、市役所など市内16カ所に、東日本大震災の被災地に対する義援金箱を設置。被災地への支援活動を続けています。菊池市長協議会でも、被災地復興を願い、各行政区ごとに募金活動を行いました。今後も、被害を受けた地域の一刻も早い復興へ向けて、市民の皆さんの温かい支援をお願いします。